



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴史家 しらこまひとみ 白駒妃登美

# 加賀百万石を築いた夫婦愛

## 前田利常と珠姫

### ＊すべてはお家存続のために

加賀といえば「百万石」。歴史好きな方でもなくとも、馴染みのあるフレーズではないでしょうか。その城下町として栄えた金沢は、加賀友禅に漆器、金箔など、伝統工芸の宝庫として知られます。どれも溜息が出るほど優美な品々。しかしその美しさの裏には、加賀百万石の生き残りをかけた決死のドラマがあったのです。

加賀を治める前田家は、豊臣秀吉の厚い信頼を受け、五大老筆頭を務めた前田利家を祖とする家柄。その名声に加え、徳川家に次ぐ百万石の実力を備えているのですから、秀吉亡き後の天下を狙う家康にとって、まさに目の上のタンコブとも言える存在だったでしょう。

ついに天下人となり、前田家潰しを仕掛ける家康に対し、前田家は懸命の生き残りを図り、策を講じます。その一つが、伝統工芸品でした。豊富な財力を、軍備ではなく殖産興業に費やすことで、徳川に背く意志がないことを示そうとしたのです。言い換えれば、前田家の「生きる」覚悟が、あの美しさを育んだのですね。

それでもなお、家康の警戒心は解けません。家康は、前田家に謀反の疑いをかけ、加賀征伐を企てました。百万石の命運もはやこれまでか——。この窮地に立ち上がった女性がいます。加賀藩主・前田利長の母であり、藩祖利家の妻・まつです。夫と二人三脚で築き上げた前田家を、自分の命に代えてでも守るという気概が、まつにはありました。彼女は人質として自ら江戸に赴くことで、前田家の忠誠を示したのです。

珠姫 徳川秀忠の次女。慶長6年(1601年)に金沢に入り、前田利常と結婚。(1599-1622) 菩提寺の天徳院(金沢)では、珠姫を徳ぶ人形劇が上演されている。

【イメージイラスト】アオジマイコ